

NILES

DESIGNING FOR HIGH LIFE
No. 913 November 2023
ナイルズ



中縄、食の冒険



最も美しいサメと呼ばれ、絶滅危惧種とされるブルーシャーク(ヨシキリザメ)。デルマのシンボルでもある。

SDGs×企業 第21回

デルマ

生命の源となる海を守る

スイス発のウォッチブランド、デルマ。同社の代表作とされるのが、プロフェッショナル向けの高性能ダイバーズウォッチ「ブルーシャーク」である。デルマは同コレクションを通じ、絶滅危惧種の保護やサンゴ礁の保全など、世界的な海洋保護活動を支援し続けている。

Text Aki Nogami

1924年、スイス・ビール近郊のレングナウに創業したウォッチメーカー、デルマ。アドルフ・ジローメンとアルベルト・ジローメンが創業した同社は、2代目のフレッド・ライボンドグットと、3代目のアンドレアス・ライボンドグットが経営に携わって以降、希少なファミリー経営のブランドとして成長してきた。

33年にデルマの紋章を刻んだ懐中時計が、46年には同社初のクロノグラフモデルが登場。現在はその多くがダイバーズモデルで知られるデルマだが、初のプロフェッショナル向けのダイバーズが登場したのは75年のこと。2011年には3000mの防水性を確保し、かつヘリウムバルブ、逆回転防止ベゼル、夜光数字とインデックスを備えた「ブルーシャーク」が登場する。この「ブルーシャーク」は手袋をしたままでも操作できるように改良が施され、16年には「ブルーシャークII」へと発展。「ブルーシャーク」は、デルマにおける重要な基幹コレクションとして受け継がれてきた。

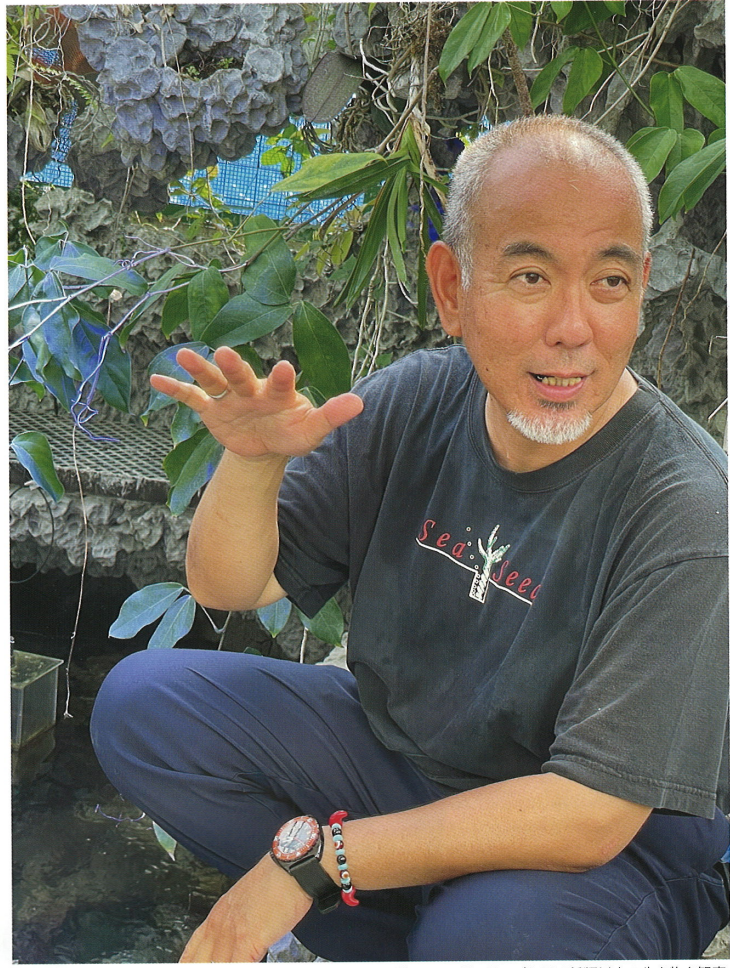
そしてこの「ブルーシャーク」は、同社における海洋保護のプロジェクトを象徴する存在でもある。「ブルーシャーク」とは、和名で「ヨシキリザメ」のこと。世界で最も美しいとサメと呼ばれるこのヨシキリザメは、絶滅危惧種に指定されている。デルマはポルトガル領のアゾレス諸島を中心に、ヨシキリザメやアオサメ、ジンベエザメ、モブラエイ、マンボウなどの海洋生物保護団体であるメガロドン・プロジェクトのスポンサーとして



金城氏は養殖サンゴの海への移植を成功させ、世界初となるサンゴ産卵という偉業も達成。写真は2019年の植え付けポイント。



金城氏(左)とデルマ・ジャパン代表の妻野豪氏(右)。デルマ・ジャパンは金城氏への支援を通じてサンゴを守り、その再生を目指す。



海洋保護活動の第一人者である金城浩二氏。金城氏は、10万株・1200種のサンゴと200種類以上の生き物を観察できる観光スポット「さんご畑」の代表も務めている。

も活躍してきた。デルマは深海3000〜4000mに生息するヨシキリザメの存在を世界に知らせるため、4000m防水を備えた高性能のダイバースモデル「ブルーシャークIII」を開発。コレクシオン誕生50周年を機に登場した「ブルーシャークIII」は、その収益の一部がメガロドン・プロジェクトに寄付されることとなり、ノーマルモデルとブラックエディションのほか、アゾレス諸島の海洋生物をたたえるアゾレス・エディションが展開された。2023年9月には5000m防水を備えた「ブルーシャークIV」を世界限定999本で発表。新たなタイムピースとしてデルマ史に加わった。

デルマのダイバースモデルは、プロフェッショナル向けと呼ばれるように、多くのダイバーたちに愛用されてきた。デルマは昨年日本とのパートナーシップを締結し、極東市場の拠点としてデルマ・ジャパンを創設。100m潜水(CWT)に成功した世界で五人目の女子フリーダイバー福田朋夏氏をデルマ・ジャパンのアンバサダーに迎え、アスリートたちの活躍を支援する姿勢を表明した。フリーダイバーとして活動する一方で、沖縄を拠点に海のクリーンアップにもいそしんできた福田氏だが、彼女同様、同じくデルマの愛用者となるのが、サンゴ養殖の第一人者として知られる金城浩二氏だ。

現在、日本のサンゴ礁の約90%が沖縄海域に生息しているが、1990年代後半から、南西諸島でサンゴの「白化現象」が発生。光合成

を行うための褐虫藻を失い、白い骨格が見えるサンゴの現象を白化というが、白化が続くとサンゴは死滅していくこととなる。97年の世界自然保護基金(WWF)の調査によれば、温暖化による海水温の上昇が導くこの白化現象により、南西諸島はサンゴにとって非常に危険度の高い地域と指定され、サンゴ礁を取り巻く生態系の変化までもが危ぶまれる状況となっていた。

幼少期から沖縄の海に親しんでいた金城氏は、そんな危機的状況を目の当たりにし、「豊かな海を忘れてはいけない。生態系を育むサンゴを養殖し、海に返す仕組みを作ろう」という思いから、サンゴ移植についての研究を独学でスタート。「サンゴ礁を次の世代へ」を合言葉に、沖縄北谷漁協との共同研究を続けてきた結果、金城氏は2005年に養殖サンゴの海への移植を達成。世界で初となるサンゴ産卵の偉業を成し遂げることとなる。

これまでダイバーの生命を担うタイムピースの開発に力を注いできたデルマ。その視線は現在、彼らの活躍の場であり、あらゆる生命の源となる海の自然へと向けられているのである。

そんな氏の揺るぎなき情熱に賛同したデルマ・ジャパンは、金城氏への支援を決定した。同じくサンゴを守り、再生することを目的とする一般社団法人セーブ・ザ・リーフを通じて、デルマ・ジャパン収益の一部を金城氏へと寄付し、プロジェクトをサポートを行っている。

これまでもダイバーの生命を担うタイムピースの開発に力を注いできたデルマ。その視線は現在、彼らの活躍の場であり、あらゆる生命の源となる海の自然へと向けられているのである。

幼少期から沖縄の海に親しんでいた金城氏は、そんな危機的状況を目の当たりにし、「豊かな海を忘れてはいけない。生態系を育むサンゴを養殖し、海に返す仕組みを作ろう」という思いから、サンゴ移植についての研究を独学でスタート。「サンゴ礁を次の世代へ」を合言葉に、沖縄北谷漁協との共同研究を続けてきた結果、金城氏は2005年に養殖サンゴの海への移植を達成。世界で初となるサンゴ産卵の偉業を成し遂げることとなる。

幼少期から沖縄の海に親しんでいた金城氏は、そんな危機的状況を目の当たりにし、「豊かな海を忘れてはいけない。生態系を育むサンゴを養殖し、海に返す仕組みを作ろう」という思いから、サンゴ移植についての研究を独学でスタート。「サンゴ礁を次の世代へ」を合言葉に、沖縄北谷漁協との共同研究を続けてきた結果、金城氏は2005年に養殖サンゴの海への移植を達成。世界で初となるサンゴ産卵の偉業を成し遂げることとなる。